



戦後七十一回目の慰霊の日を迎えます。この日に開催される摩文仁の追悼式典に参加するたびに、私たちはたくさんの命の上に生かされているとしみじみと感じます。この想いは次世代に継承していきたいものです。

生身供

良啓

真言宗の開祖である弘法大師空海は、今も生きていて（入定信仰）高野山より私たちを見守っていると信じられています。生きているのでお腹が空きます。そこで、京都東寺や高野山では毎日お大師様に食事をお供えています。

京都東寺で修行していた頃、何度かその生身供をお手伝いすることがありました。早朝五時に起床し、御影堂（お大師様が実際に使っていたお堂）に上がり、お膳の用意。六時に梵鐘を突き、先ず朝食のお膳。続けて昼食のお膳。そして三時のおやつと順番に供えます。供物は実際には調理せず、カットした野菜をそのまま供えます。そして、後で美味しく僧侶が頂きます。現代は三食が当たり前になっていますが、平安時代は二食が常食だった為、朝食と昼食に夕方のおやつと言う内容となっています。

（余談ですが、修行中の夕食は非食（ひじき）と呼ばれています。「食に非ず」と言う意味です。）
そして、お膳出しが終わると「舍利授け」が行われます。これは、参拝者に仏様の功德を授ける儀式です。舍利とはお釈迦様の遺骨です。



御影堂

このような貴重な経験はなかなかできるものではありませんので、京都に行かれる方は、早起きして、東寺御影堂に参拝してみても如何でしょうか？厳かな伝統の中に生きる人々のお大師様への温かな信仰に触れられる事でしょう。

弘法大師のことば

裕俊

真言は不思議なり 観誦すれば無明を除く
一字に千理を含み 即身に法如を証す

般若心経秘鍵より

「真言というものは不思議なものである。本尊を観想し真言を唱えたならば、根源的な無知の闇が除かれる。真言のわずか一字の中に、それぞれ千の理法が含まれている。それによって、この身このままで真理を悟ることができる。」

真言とは、私たち真言宗の僧侶が読経する際にお唱えする呪文のようなものです。真実の言葉、仏の言葉とされ、お経と違い、漢訳せずサンスクリット語（梵語）のままお唱えします。大日如来や不動明王など、様々な仏様の真言があります。

そこで今回は、当寺の本尊である聖観世音菩薩の真言をご紹介します。

「オン アロリキヤ ソワカ」

「清浄なる御身（聖観世音菩薩）に帰依します」という意味です。

当寺にお参りの際は、是非この真言を七返お唱えし、観音様とご縁を結ばれてください。

